

## NEW BUSINESS REVIEW



### FAI 事業部

#### 輸送用機器関連事業の収益拡大に向けて

FAI (Future Automotive Industry) 事業部は、THK 製品の自動車部品としての採用拡大を目的に 1999 年に発足しました。その後、同事業の主力製品であるリンクボールは、自動車のスタビライザーとサスペンションをつなぐジョイント部分などの足回り機構の部品として、日本、米州、欧州の大手自動車メーカーに採用され、着実に事業を拡大させてきました。アルミダイカスト一体型成形のリンクボールは、従来のスチール製に比べ軽量ながら高い耐食性、耐摩耗性を実現しており、燃費の向上が求められる中、自動車メーカーから高い評価を受けています。

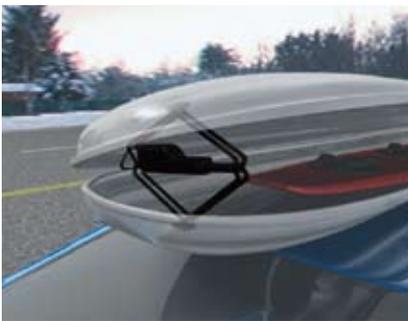
また、2007 年には、新規分野への展開を加速させるべく株式会社リズム（以下、「リズム」）を連結子会社化しました。リズムはばらつきの極めて少ない安定した寸法・強度等を実現するスチール製品の鍛造技術や、優れた品質管理体制を有しています。FAI 事業部では、リズムを加え、輸送用機器関連事業として一体となった事業展開を図っています。すでに日本では、FAI 事業部の本体をリズム本社工場に移し、米州でも、重複した拠点を統合し効率的な販売網を整備しました。欧州でも、リズムのスタッフを新たに配属し、販売力の強化を図りました。また、タイには、2007 年に新たな生産拠点として THK RHYTHM (THAILAND) を設立しています。

#### リズムとのシナジーの追求

FAI 事業部とリズムの一体となった取り組みの結果、採用車種の拡大を図ることができています。今後も、リズムとのさらなるシナジーを追求し、世界の自動車マーケットの変化に対して、迅速かつ的確に対応することで、存在感のあるサプライヤーとなることを目指しています。

輸送用機器関連事業を取り巻く環境としては、中長期的には自動車の生産地域の拡大と新興市場での需要の増大が見込まれます。そのような中、世界各地での積極的な提案営業の展開や競争力のある製品提供に努め、取引先および採用車種の拡大につなげていきます。

また、世界的な環境保全ニーズの高まりとともに、自動車の軽量化、省エネルギー化がますます進んでいくことが考えられます。これまで FAI 事業部では、従来のスチール製では実現できなかった軽量化をアルミダイカスト技術によって実現し、燃費性能の向上に貢献してきました。今後はこれにリズムの鍛造技術を組み合わせることで、将来のデファクトスタンダードとなる製品の開発を進めていきます。加えて、将来的にはハイブリッド自動車や電気自動車の普及が進んでいくことが予想されます。THK では、こうした変化を追い風と捉え、LM ガイドをはじめとした THK 製品の自動車部品としての採用拡大に向け、研究開発を積極化させています。



## ACE 事業部

### 可能性の広がる THK の免震・制震技術

ACE (Amenity Creation Engineering) 事業部は、2001 年の発足以来、「快適さを求め、独創的な生活空間を、技術開発していこう」をコンセプトに、THK 独自の「ころがり」化技術を活かし、地震の脅威から人々の生命や財産を守る免震・制震装置を販売しています。

THKの免震・制震装置の特長は、LMガイド、ボールねじ等のTHKの基本技術を応用することで、高層ビルから戸建住宅、社寺建築等の歴史的な構造物まで、様々な建築物に十分な効果を発揮できる幅広い製品ラインナップを揃えていることです。

また近年、企業のBCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) に対する意識が高まる中、THK は独自の免震・制震技術のノウハウを応用し、PC やサーバーなどの事業資産を地震の被害から守る免震テーブルを販売しています。この免震テーブルは既存の製品に比べ、地震が発生した際に、ねじれや浮き上がりの無い安定した動きをする高性能な製品となっています。

2008 年度については、引き続き採用数の増加に向けて、住宅関連の展示会場などで免震体験車を導入した積極的な PR 活動を展開しました。その他、企業向けのサーバー用免震テーブルでは、THK 製品の優位性を強調した積極的な販売活動を実施しました。

その結果、THK独自のころがり技術を採用した免震装置ならびに制震装置の知名度が上がり、採用実績を着実に増加させることが出来ました。

### BCP 関連製品のニーズ拡大と普及・販売活動の強化

世の中の災害対策に対する意識が高まる中、免震・制震装置の需要は長期的に増加していくものと考えられます。ACE 事業部では需要を取り込むべく、引き続き設計事務所やハウスメーカーなどに THK の免震・制震技術の優位性を PR していきます。また、一般消費者の方々に対しても、免震・制震装置導入の重要性や THK の優れた技術・製品をご理解いただくため、従来のセミナー開催等の普及活動に加え、免震体験車をさらに有効活用した販促活動を実施していきます。加えて、企業のBCP に関するニーズが一段と高まる環境の下、サーバー免震や機器免震などの“部分免震”の拡販にも注力していきます。

## CAP プロジェクト・MRC センター

### くらしの電動化、将来の収益源の創出

CAP (Consumer Application Products) プロジェクトは、THK 製品を最終消費財へ応用し、新市場を開拓・創造していくことを目的に2002年に発足しました。「くらしの電動化」をコンセプトに、家電部品を中心に、生活環境財、ユニバーサルデザイン機器など幅広い分野でビジネスを展開してきました。製品開発においては、既存ニーズに応えるマーケットイン開発だけでなく、未来志向のプロダクトアウト開発も推進してきました。その結果、これまでにプロジェクト用レンズシフトユニットやクッキングヒーター用スライドレールなどを量産案件として獲得することができました。

MRC センターは、メカトロニクス (Mechatronics) やロボット (Robotics)、さらにはコンピュータ技術 (Computing) を駆使し、世にないものを作り出し、将来の収益の柱となるものを創出することを目的に、2000 年に発足しました。大きな市場となることが期待されている外科手術支援ロボットや人型ロボットなどの最先端の技術分野に着目し、THK の持つ優位性の応用を図ってきました。大学との共同研究の結果、従来よりも複雑かつ精緻な動きを実現するメカトロニクスを搭載した外科手術支援ロボットを開発しており、実用化に向けた取り組みを続けています。

なお、2009 年 6 月に実施した組織変更により、従来の CAP プロジェクトや MRC センターの機能を、技術本部内に新設した事業開発統括部に再編しました。この組織変更によって開発効率の向上を図り、さらなる製品用途の拡大を目指していきます。